

「EE 東北 '21」が広げる 新技術の未来

EE東北実行委員会事務局

1. はじめに

EE 東北は、建設事業に係わる新材料、新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開し、その普及を図ることにより、新たな技術開発の促進と良質な社会資本の整備を通じ、地域社会の発展に寄与することを目的として開催しており、今回で節目となる 30 回目を迎えることができました（写真－1）。

2. 開催概要

今回開催した「EE 東北 '21」は、東北最大級の展示会場である「夢メッセみやぎ（仙台市宮城野区）」を主会場として、徹底した新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、令和3年6月2日（水）・3日（木）の2日間にわたり開催しました（図－1、写真－2）。

EE 東北は、平成2年度から毎年開催してお



写真－1 新技術屋内展示場の全景



図－1 EE 東北 '21 会場位置図



写真－2 開会式（テープカット）

※「EE」とは Engineering Exhibition（エンジニアリング エキシビション）の略で、新技術を広く公開するという意味で名付けられています。

り、本開催が30回目（平成23年度は東日本大震災のため、令和2年度はコロナ禍により開催中止）の節目となる開催であったことから、例年実施している新技術の展示やプレゼンテーション発表等に加え、国土交通省技監の基調講演をはじめとする各種記念プログラムを用意しました（表-1）。

また、今回の開催における来場者は2日間で延べ9,900人と、過去最大の来場者数であった前回開催「EE 東北'19」の約6割にとどまりましたが、本開催と同時に開催したWEB会場の閲覧者が計6,600人にのぼったことから、本開催とWEB会場の参加者を合計すると、前回開催とほぼ同数の16,500人が「EE 東北'21」に参加して

いただいたことになります（図-2）。

3. 実施内容

(1) 新技術展示会（本館展示棟、屋外展示場）

建設関連分野に係わる新材料、新工法、その他時代のニーズに応え開発された新技術、及びICT（情報通信技術）やAI（人工知能）などのDX（デジタル・トランスフォーメーション）に関連する技術を中心に、屋内・屋外合わせて過去最大となる出展者数319出展者、出展技術数934技術を公開しました（写真-3）。

表-1 開催スケジュール

内 容	開催日
開会式 ・開会宣言、主催者あいさつ、来賓祝辞、テープカット	6月2日(水)
新技術展示会 ・出展者数：319出展者 ・出展技術数：934技術	6月2日(水) ・3日(木)
基調講演【国土交通省山田邦博技監】	6月2日(水)
第30回開催記念 特別講演【東京大学大学院全邦釘（チョン・パンジョ）特任准教授】	6月3日(木)
第30回開催記念 i-Construction 体験広場 ・出展者数：12出展者	6月2日(水) ・3日(木)
第30回開催記念パネル展(祝辞、EEのあゆみ)	
新技術プレゼンテーション ・発表技術数：38技術（題）	
インフラ点検・長寿命化技術デモンストレーション ・出展者数：4出展者	
特設コーナー ・リクルート出展企業紹介コーナー ・高校生「橋梁模型」作品発表会入賞作品展示 ・技術パネル（ICT）展示	

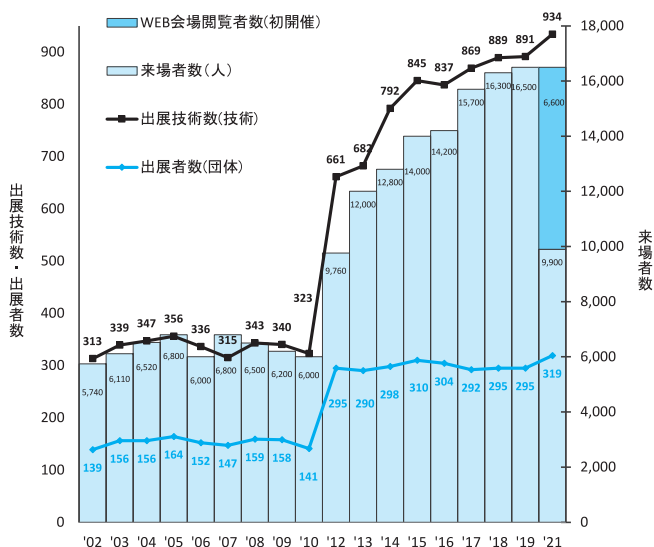


図-2 EE 東北来場者数等の年度別推移

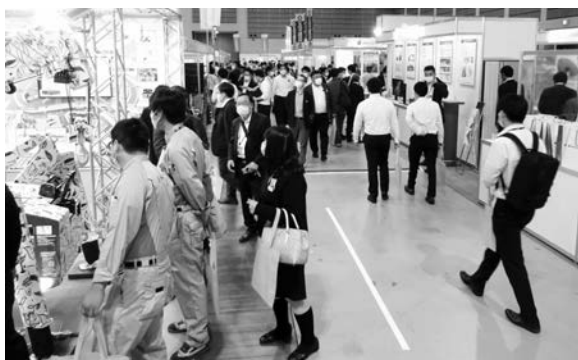


写真-3 展示場の様子（左：屋内、右：屋外）

(2) 基調講演・特別講演（本館会議棟 AB）

第30回開催の記念プログラムとして、両日講演会を開催し、初日は「建設デジタル・トランスフォーメーション（DX）による建設事業の挑戦と未来像」と題して、国土交通省 山田邦博技監（当時）から、また、2日目は「AI技術の活用により変わるインフラ建設・維持管理」と題して、東京大学大学院 特任准教授 全邦釘（チョン・パンジョ）先生からご講演いただきました。両日も多くの来場者の方々にご聴講いただきました（写真－4）。



写真－4 講演会の様子

(3) i-Construction 体験広場（サテライト会場）

同じく第30回開催の記念プログラムとして、i-Constructionの流れが体験できる広場をサテライト会場として設けました。ここでは、実際に大型建設機械等を見て触れながらICT施工技術を体験することができ、約500人の方々に体験していただきました。今後のICT施工の普及拡大につながることを期待しています（写真－5）。

(4) インフラ点検・長寿命化技術デモンストレーション（西館）

スペースの関係で新技術展示会場ブース内では実施困難な、インフラメンテナンス革命に関する新技術のデモンストレーション及びプレゼンテーションを開催し、約500人の見学者に対して情報発信を行いました（写真－6）。



写真－5 i-Construction 体験広場



写真－6 デモンストレーション会場

(5) 新技術プレゼンテーション（本館会議棟大ホール A・B）

プレゼンテーション会場として、出展技術の詳細について紹介する場を設け、各技術の特徴や活用方法等の詳細について発表していただきました。2日間で750人以上の方にご聴講いただきました。

(6) 特設コーナー（本館展示棟コンコース）

展示棟入口のコンコース内には、学生向けリクルート出展企業の紹介コーナーを設置したほか、高校生による「橋梁模型」作品発表会での入賞作品や ICT 施工技術に関するパネル等を展示し、多くの来場者にご覧いただきました（写真－7）。

4. 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 来場者等の事前登録

今回から初めて来場者の事前登録を行い、入退場の QR コードを発行の上、全来場者の氏名や

連絡先等を事前に確認し、新型コロナウイルス感染者の発生に備えた対応をとりました。

(2) QR コードを活用した入退場者数のリアルタイム管理

入場者数が会場の収容可能人数を超えないようにするため、入退場時に事前登録情報とひも付けされた QR コードをスキャナーで読み込んでもらうことにより、会場内の来場者数についてリアルタイム管理を行いました（写真－8）。

(3) WEB 会場の開催

現地会場への来場が困難な方のために、今回初めて実開催と同時に「EE 東北 '21WEB 会場」を開催しました。WEB 会場では、開会式や基調講演をはじめとした各開催内容のライブ配信や、各出展技術を紹介する電子版ガイドブックの掲載等を行いました（写真－9）。

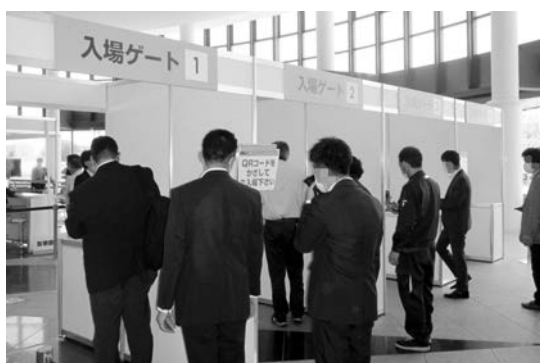
なお、会場内における WEB アクセス向上を図るため、屋内展示棟内にフリー Wi-Fi 機器を設置し、来場者の皆さまにご利用いただきました。



写真－7 特設コーナー



写真－8 入退場者管理





写真－9 ライブ配信の様子

(4) その他対策

その他の主な対策としては、出展ブース内説明者の人数制限（1小間当たり最大2人まで）、休憩スペース（休憩用椅子）の全廃、館内における飲食禁止の徹底、屋内展示棟通路に一方通行の案内表示、館内放送による逐次注意喚起等、できる限りの新型コロナウイルス感染症対策を実施しました。

5. おわりに

「EE 東北」は、今回で30回目の節目を迎える

ことができました。これまでも出展技術はその時代のニーズ・要請に応じて変遷してきましたが、今回出展された非接触やりモートに関する技術などは、新型コロナウイルス感染症の影響を色濃く反映されたものと感じました。

また、同時に「EE 東北」の開催方法自体についても大きな変化を求められる開催となりました。新たな形での開催となった「EE 東北」ですが、その目的は変わりなく、建設技術を媒体として出展者・来場者・地域を強く結びつけ、東北地方の復興や発展のヒントとなる実りの多い展示会になりますよう、これからも柔軟かつ真摯な取り組みを続けていきたいと思っています。